

医療の値段を決める中央社会保険医療協議会の新委員が決まった。焦点は、開業医の利益代表とみられてきた日本医師会卒の委員3人が外れたことだが、関係者の耳目を集めたもう一つの人事がある。専門委員に北村善明・日本放射線技師会長が選ばれたのだ。

医師、歯科医師、薬剤師、看護師の4職種以外の代表が中医協の委員になるのは初めて。北村さんは、厚生労働省の足立信也政務官から電話を受け、「多様な職種の代表として就任してほしい」と依頼されたという。

病院や地域で働く医療介護職は、国家資格だけでも25。その中で、厚生省が北村さんを指名したのは、先月発足した「チーム医療推進協議会」の存在が大き

いのだろう。薬剤師や理学療法士、臨床工学技士、管理栄養士など13の職種代表が集まった組織。北村さんはその代表だ。設立理念を「患者の生き方を尊重した医療の実現」とうたう。

治療やりハビリ、療養の現場ではすでに、多様な職種によるチームが患者を支えている。それぞれが高い専門性を持ち、異なる視点から「患者にとっての最良」を探っていけば、医師中心だった医療は、患者中心に変わらう。

中医協だけで改革はできない。職種ごとの権限争いにせず、「患者第一」を貫く仕組みも必要だ。とはいえ、今回の人事が芽となり医療再生につながるよう、協議会にもっと多くの職種が参加し、議論を深めてほしい。